

大垣共立銀行 東京支店

サービス空間・パブリック空間 デザイン・設計 制作・施工 アワード 関東

事例概要

株式会社大垣共立銀行様の東京支店移転において、法人窓口店舗の設計・施工を担当しました。

本支店は、同社が本店を置く岐阜から東京へ進出するスタートアップ企業を支援する窓口店舗でもあることから、「スタートアップらしさ」を体感できる空間としました。スタートアップ企業はいわば「未完成」であり、「どんなものにもなれる可能性」を秘めた存在であると捉え、「未完成の可能性」をコンセプトとしています。

LGS（軽量鉄骨材）やグラスウール、積層合板、OSB、クロメートメッキなど、本来は下地に使用されるものや、隠されるべきものを主役と捉えてデザインに用いつつ、それ以外をニュートラルなグレーでまとめ、「成長途中でありどんなカタチやイロにもなれる、スタートアップらしさ」を表現しています。

ラフで無骨な素材を、繊細なディテールでまとめることで、無骨でありながら、東京にある銀行として品格のある空間を実現しました。

当社デザイナー・松尾祐弥（まつお・ゆうや）のコメント

今、つくる意味のある支店として、時代に即したエシカルな設計思考が必要ではないかと考えました。

通常の銀行であれば、壁はLGS（軽量鉄骨材）を建て、必要に応じ防音材を充填し、ボードを貼り、表装材で仕上げますが、工種や工期がかさみ、解体時には全てが複合廃棄物となってしまいます。しかし仕上げがLGSそのものであれば、工種・工期を圧縮でき、また、解体時は金属ごみとしてリサイクル可能となります。

床においてはリサイクルカーペットを起用することでCO2排出量を抑え、防音に関しても、パネル状の防音材を壁面に貼り、表装仕上げを不要としています。本応接は意匠が必要でしたが、地元の間伐材を砕いたOSBを用い、アートワークにおいても地元の窯元と協業し、岐阜の清流を表現したタイルを特注で製作することで、東京という都市へサステナブルだけでなく、地域産業をもアピールできる空間が完成しました。

名称 大垣共立銀行 東京支店

所在地 東京都中央区

オープン日 2023.4

クライアント 株式会社大垣共立銀行 様

当社担当業務 【営業・施工】名古屋本部
【デザイン・設計】名古屋本部
Design Lab./松尾祐弥

撮影 Takuya Yamauchi

受賞 日本空間デザイン賞2023 入選

第42回ディスプレイ産業賞 入選

